



RSウイルス感染症 乳幼児・高齢者は要注意!

令和3年6月9日
富山県感染症情報センター

(0766-56-5431 直通)
(0766-56-8142 細菌部)
(0766-56-8143 ウイルス部)

感染症発生動向速報

(令和3年第22週分・5月31日～6月6日)

《インフォメーション》

●RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルスを原因とする急性呼吸器感染症です。乳幼児の肺炎の約50%、細気管支炎の50～90%がRSウイルスによるとされています。

2016年頃からのRSウイルス感染症の全国における報告数は、夏から徐々に増加し秋にピークを迎える傾向がありました。しかし今年は1月から感染者数が増加した九州地方を始めとして、西日本を中心とした各地で季節外れの流行が拡大しています。

県内におけるRSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は、全国平均と比較して高い水準で推移しており、例年とは全く異なる流行パターンを示しています。県内のRSウイルス感染症の定点医療機関あたり報告数(人/週)は、第11週(3月15日～21日)以降、平年を大幅に上回る状況が続いています(右上図参照)。先週(21週)には過去10年で最も高い値(7.10)を記録しました。また、県内の症例の年齢内訳はほとんどが3歳以下の乳幼児です(右下図参照)。RSウイルス感染症が幼稚園、保育所や家庭内等で発生していることが推定されます。

RSウイルスの主な感染経路は飛沫感染と接触感染です。RSウイルス感染においては、4～6日の潜伏期間の後、鼻汁、咳、発熱などの上気道症状が認められます。6ヵ月未満の乳幼児では重症化しやすく、重症例では入院治療が必要となります。成人では上気道の感冒様症状のみで自然軽快することが多いとされていますが、高齢者や基礎疾患のある成人では重症化する場合があります。

感染予防としては、手指消毒、こまめな手洗い、マスクの着用といった基本的な感染対策が有効です。低出生体重児や免疫異常、心臓疾患などの基礎疾患がある乳幼児に対しては、ヒト化抗RSウイルスモノクローナル抗体であるパリビズマブを投与することで、RSウイルス感染症の重症化予防が期待できます。詳しくは医療機関へご相談ください。

《全数報告の感染症》

新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症 58件

二類感染症 結核 3件 (①第18週診断分:60歳代、女性 ②80歳代、男性 ③90歳代、女性)

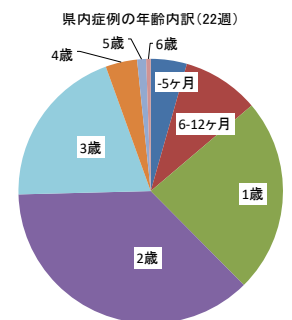
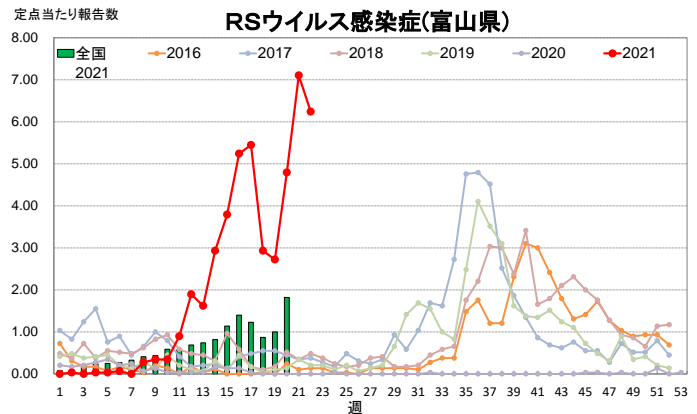
三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1件 (60歳代、男性、O157、VT1VT2)

五類感染症 梅毒 2件 (①30歳代、男性、早期顕症梅毒I期 ②30歳代、男性、無症候)

《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患

順位	疾病名	定点あたりの数	
		今週(増減)	先週
1位	RSウイルス感染症	6.24(↓)	7.10
2位	感染性胃腸炎	3.72(↓)	4.24
3位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.83(↓)	0.93
4位	咽頭結膜熱	0.69(↑)	0.28
5位	突発性発しん	0.17(↓)	0.45
6位	水痘	0.07(↑)	0.03



この内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
アドレス <https://www.pref.toyamajp/branches/1279/kansen/>

○感染症発生動向調査報告状況（令和3年第22週 令和3年5月31日～令和3年6月6日）

分類	疾患	今週報告分（第22週）						累積報告数（令和3年第1週（1月4日）～）							
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他※1	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他※1	計
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	7		9	3	39		58	97	118	349	62	690	32	1,348
二類感染症	結核				1	1		2	7	3	17	9	16		52
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症				1			1			2	1	1		4
四類感染症	E型肝炎								1				1		2
	つつが虫病								1						1
	レジオネラ症									1	2		1		4
五類感染症	ウイルス性肝炎								2						2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症										1	1	1		3
	急性脳炎										1				1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症										1		1		2
	後天性免疫不全症候群								1				1		2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症										1	1	1		3
	侵襲性肺炎球菌感染症								1		1		10		12
	水痘（入院例）												1		1
	梅毒	1		1				2	1	1	3		12		17
	播種性クリプトコックス症												1		1
	破傷風										1			1	
定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ										5				5
	RSウイルス感染症	2	11	130	5	33		181	83	97	507	24	645		1,356
		0.50	3.67	16.25	1.25	3.30		6.24							
	咽頭結膜熱	1		13	1	5		20	19	27	104	2	69		221
		0.25		1.63	0.25	0.50		0.69							
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	1	7	3	10		24	53	30	411	75	171		740
		0.75	0.33	0.88	0.75	1.00		0.83							
	感染性胃腸炎	21	13	15	37	22		108	417	206	286	117	614		1,640
		5.25	4.33	1.88	9.25	2.20		3.72							
	水痘			2				2	1	6	16	4	22		49
				0.25				0.07							
	手足口病					1		1	2		9	1	5		17
						0.10		0.03							
	伝染性紅斑									1	5	1	12		19
	突発性発しん			3	1	1		5	28	16	79	34	64		221
				0.38	0.25	0.10		0.17							
	ヘルパンギーナ								16						16
流行性耳下腺炎								2	2	5	3	3		15	
流行性角結膜炎									1					1	
細菌性髄膜炎												1		1	
無菌性髄膜炎												1		1	
マイコプラズマ肺炎									1	7	1			9	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）								1						1	
インフルエンザによる入院患者（※2）											1	8		9	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。 ※1 その他は県外、居住地非公表分です。 ※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和2年第36週(8月31日)～の集計です